

# 644. 一階常微分方程式ノ特異点ニ就テ, XIV

福原 満洲 雄 (九大)

1. XII, XIII デ述べヌ結果ノ中デ関係ノアル部分ダケヲ繰返シテ述べテ置ク。

$$(1) \frac{dy}{dt} = y f(t, y)$$

ノ右辺  $f(t, y)$  ハ漸近的ニ

$$(2) f(t, y) \sim \sum_{j,k} a_{j,k} e^{jt} y^k$$

( $a_{00} = \dots = a_{0,n-1} = 0, a_{0n} \neq 0$ )

ナル形ニ展開サレルモノトスル。 (1) ノ形式的ノ解トシテ

$$(3) y \sim \sum_{j,k} p_{j,k} e^{jt} z^k$$

$$(4) z = \left( \frac{a'}{a} \circledast \left( -\frac{na^2}{a'} (t+c) \right) \right)^{-\frac{1}{n}}$$

ヲ得ル、茲ニ  $z = \circledast(\tau)$  ハ  $w(0) = 0$  ヲ満足スル

$$\frac{dw}{d\tau} = 1 + w^{-1}$$

ノ解ヲアツテ  $\tau^{-1}$ 、 $\tau^{-1} \log \tau$  ガ十分ニ小サイ時

$$(5) \circledast(\tau) = \tau (1 + \tau^{-1} \log \tau + \dots)$$

ナル形ニ展開サレル。  $\tau^{-1}$ 、 $\tau^{-1} \log \tau$  ノ収斂ヲ累級数ニ展開サレル。

$$y = \sum_{N-1} p_{j,k} e^{jt} z^k + u$$

ト置イテ得ラレル  $u =$  関スル方程式

$$(6) \quad \frac{du}{dt} = g(t, z, u)$$

が  $u = O(t^{-\frac{M'}{u}})$  ( $M' =$  關シテ前回参照) ヲ満足スル解ヲ唯一ツ持ツコトヲ証明シ, ソレニ對應スル (1) ノ解ヲ  $y =$  各重  $(t, C)$  ト表ハス。(前回ハ  $y =$  重  $(t, C)$  ト書イテが大シタ問題デハナイ)。各ハ (4) = 依ツテ定義サレル変数トシ, 重  $(t, C) = \varphi(t, z) =$  依ツテ  $t, z$  ノ函数  $\varphi(t, z)$  ヲ定義スル。結論ハ屢々言フマウ =  $y =$  各  $\varphi(t, z)$  ヲ  $t, z$  ノ函数ト考ヘタトキ漸近的 = (3) ナル形ニ展開サレルコトデア  
ル。

2. 前回 = 於テハ重  $(t, C)$  が  $N =$  關係シナイ理由ヲ説明シナカツタ。ソレヲ示ス = ハ解ノ單獨條件ニ注意スレバヨイノデア  
ル。  $u = O(t^{-\frac{m}{n}})$  ヲ満足スル (6) ノ解が唯一ツデア  
ルマウ =  $N =$  關係シナイ  $m$  ヲ取ルコトが出来ルコトニ注意スル。重  $(t, C)$  ハ  $N =$  關係スルカモ知レナイカラ重  $_N(t, C)$  ト書クコト = スル。

$N' > N$  トスレバ

$$u = \varphi_{N'}(t, C) - \sum_{N-1} P_{jk} e^{j t} z^k$$

ハ (6) ノ解デ  $u = O(t^{-\frac{m}{n}})$  ヲ満足スルデアラウ、ソノマウナ (6) ノ解ハ唯一ツデア  
ルカラソレニ對應スル (1) ノ解ハ各重  $_N(t, C)$  デナケレバナラナイ。此ノマウ = シテ重  $_N(t, C)$  ガ  $N =$  關係シナイコトが分ル。従ツテ  $\varphi(t, z) \in N =$  關係シナイノデア  
ル。

3. 扱  $t_0, z_0 =$  於テ

$$(7) \quad \left| \varphi(t, z) - \sum_{N+1} p_{j,t} e^{j t z} \right| \leq K(|e^{M t}| + |z|^{M'})$$

が成立スルコトノ証明デアル。(4) = 依ツテ  $t_0, z_0 =$  對應スル  $C$ ノ値ヲ  $C_0$ トスル。(6)ノ右辺が含ム  $C = C_0$ ナル値ヲ與ヘ、コノ方程式が  $t_0$ ヲ含ミ  $\infty$ マテ伸ビテ居ル曲線  $\Gamma$ ノ上デ

$$|u| \leq K(|e^{M t}| + |z|^{M'})$$

ヲ満足スル (各が含ム  $C =$ ハ  $C_0$ ナル値ヲ與ヘル) 解ヲ持ツコトヲ存在定理ヲ使ツテ証明スルデアル。ソノヤウナ解ハ  $u = 0 (t^{-\frac{M'}{n}})$ ヲ満足スルカラ解ノ単獨性=ヨリ、ソレガ

$$u = \varphi(t, z) - \sum_{j,t} p_{j,t} e^{j t z}$$

= 於テ  $C = C_0$ ト置イタモノ=ナル。依ツテ  $t_0, z_0 =$  於イテ (7)ヲ得ル。

此ノヤウ=結論シ得ルタメ=ハ  $t_0, z_0$ ガドノヤウナ範圍=アレバヨイカラ調ベルコト=依ツテ漸近展開ノ問題ハ解決スル。

4.  $\varphi(t, z)$ ノ  $z =$  関スル微分可能性, 正則性が如何=シテ証明サレルカトイフコトハ既=前回=於イテ述べタ。ケルサイコトハ言ハズ=級数 (2)ハ收斂デソノ和ガ  $f(t, z)$ デアルトシヨウ。此ノ場合=ハ  $\varphi(t, z)$ ガ  $e^t$ ノ收斂ヲ冪級数=展開サレルコトノ理由ヲ説明シヨウ、級数 (2)ガ收斂

デソノ和が  $f(t, y)$  デアルトイフコトハ  $f(t, y)$  が  $x =$   
 関シテ  $2\pi i$  フ週期トスルトイフコト = 他ナラナイ (尤モ  $y$   
 = 関スル  $y = 0$  = 於ケル正則性ヲ假定シテノ話、 $f(t, y)$   
 フ  $e^z = x$ 、函数ト考ヘタトキ  $x = 0$ 、近傍デ一極有界、  
 従ツテ  $x = 0$ ガ除去可能ノ特異点トナルカラデアル、) 又  
 $g(t, z)$  が  $e^z$ ノ收斂ト冪級数 = 展開サレルトイフコトハ  
 $g(t, z)$  が  $t =$  関シテ  $2\pi i$  フ週期トスルトイフコト = 他  
 ナラナイ。  $z$ ハ  $t$  フ  $t + 2\pi i$  デ、  $C$  フ  $C - 2\pi i$  ガ置換ヘテ  
 モ変ラナイカラ

$$g(t + 2\pi i, z) = \overline{\overline{g(t + 2\pi i, C - 2\pi i)}}$$

デアル、  $f(t, y)$  ノ週期性 = ヨリ (6)ノ右辺  $g(t, z, u)$  モ  $t$   
 = 関シテ  $2\pi i$  フ週期トスル。

依ツテ

$$u = \overline{\overline{g(t + 2\pi i, C - 2\pi i)}} - P_N(t, z)$$

ハ  $u = O(t^{-\frac{M'}{\pi}})$  フ満足スル (6)ノ解デアアル、ソノ  $\alpha$  ヲナ解ハ  
 唯一ツデアアルカラ

$$\overline{\overline{g(t + 2\pi i, C - 2\pi i)}} = \overline{\overline{g(t, C)}}$$

トナラナケレバナラナイ、コレ = 依ツテ  $g(t, z)$  が  $t =$  関シ  
 テ  $2\pi i$  フ週期トスルコトガ分ル、コレカラ  $\overline{\overline{g(t, C)}}$  フ  
 $x = e^z$ ノ函数ト考ヘタトキ  $x = 0$ ガ通常超越点デアアルコ  
 トモ分ル。

コノ  $\alpha$  ヲ = 漸近展開ノ問題ガ解決スルト級数ノ收斂問題  
 モ片附イテ行ク。

$g(t, z)$  フ  $z$ ノ冪級数 = 展開シテモ一般ニ收斂シナイ

ソレハ何故カ、説明スルコトモ出來ルカ否定的ノ結果デアアル  
カラ省略シテ置ク。

5. 以上3面ニ亘ツテ微分方程式(1)ノ解ノ漸近展開ノ  
問題ヲ扱フ方針ヲ述ベタ、併シコノ方針ハコノ場合ノミニ有  
效ナノデハナイ。ソノ應用範圍ノ廣イコト、証明ニ殆ンド技  
巧ヲ要シナイコト、而モ同ジ結論ニ達スルノニ逐次近似法  
ナドヨリ計算ガ樂ナコトナドガ私ガ特ニ強調シタイ点ナノデ  
アル。

方程式ノ形ガ異ヘラレタラ、先ヅ形式的ノ解ヲ求メル、  
次ニソレヲ漸近展開トスル解ノ存在ト單独性ヲ確メルタメ形  
式的ニ得タ級数ヲ途中ア切ツテ $\epsilon$ トノ差ヲ作り、ソノ差ニ関  
スル方程式ニ解ノ存在定理及ビ單独條件ニ関スル定理ヲ應用  
スル、勝手ナ常数 $C$ ガ入ツテ居ル場合ニハ補助函数ヲ含ム微  
分方程式ニ関スル定理ヲ使ツテ $C$ ニ関スル性質ヲ調べル、ソ  
レヲ漸近展開ノ問題ハ片ガ附ク、更ニ原点ガ除去可能ノ特異  
点デアアルカ否カラ調べルコトニ依ツテ級数ノ收斂性が分ル、  
何ノ躊躇モナク証明ガ進メラレ確實ニ結果ヲ擲ンテ行ケル、  
コソノ方法ガ今マア何故使ハレナカツタカト不思議ニ思ハレ  
ル位デアイル。カウナルト残ツタ場合ヲ風潰シニ片附ケルコト  
ナドハ單ナル根氣仕事ニ過ギナクナツテ了フ。